

## 海外感染症流行情報(2011年3月号)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・インドネシア・バリ島の狂犬病

インドネシアのバリ島で2月に狂犬病の非常事態宣言が発令されました(厚生労働省検疫所 2011-2-15)。当地では2008年11月から100例以上の狂犬病患者が発生しており、旅行者が訪れる場所でもリスクが存在します。

米国CDCは、短期の旅行者でも動物と接触する可能性があれば、事前にワクチン接種を受けておくことを推奨しています(CDC Travelers' Health 2011-3-1)。

### ・南米でデング熱流行

南米各地でデング熱の流行が報告されています。南米では年の上半期が雨季にあたるため、さらに患者数が増える可能性があります(厚生労働省検疫所 2011-2-15)。2月初旬までにペルーではロレト州などを中心に671人、パラグアイでは首都のアスシオンや東部で318人の患者が確認されています(外務省広域情報 2011-2-17、2-22)。この数は昨年同期に比べて増加している模様です。

### ・アジア、エジプトで鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者発生

アジアやエジプトでは2011年も鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者発生がみられています(WHO Global Alert and Response 2011-2-25, 3-10, 3-14, 3-16)。アジアではカンボジア(3人)、インドネシア(3人)、バングラディッシュ(1人)で患者が確認されており、バングラディッシュでは2008年以來の発生です。エジプトでは11人と国別患者数として最も多くなっています。

国際獣疫事務局(OIE)によれば、2011年1月までに鳥の間でH5N1型の流行が発生している国は、バングラデシュ、ミャンマー、カンボジア、香港、韓国、日本でした。2月以降はベトナム、インド、パレスチナ、イスラエルでも流行が発生しています。これらの国では市場などで生きた家禽と接触しないように注意してください。

### ・オーストラリアでロスリバー熱が流行

オーストラリア西部で最近7ヶ月間に400人以上のロスリバー熱の患者が発生しました(Pro MED 2011-3-2)。パースでも150人以上の患者が発生しており、この数は昨年の2倍の患者数になります。南西部でも160人の患者が確認されています。

ロスリバー熱は蚊に媒介されるウイルス性疾患で、オーストラリアでのみ流行しています。発熱とともに関節痛や発疹をおこすことが特徴ですが、一部の患者ではうつ症状が1~2年続くことがあります。流行地域では蚊に刺されないように注意することが必要です(厚生労働省検疫所 2011-1-13)。

### ・中国で発熱性疾患をおこす新しいウイルスが確認

2005年頃から中国では河南省などを中心に原因不明の発熱疾患が流行し、30人以上の死亡が確認されてきました。この疾患は血小板減少や多臓器不全を起こすことが特徴的で SFTS (Severe fever with thrombocytopenia syndrome) と呼ばれています。今回、中国 CDC は患者の血液から新種のウイルスが分離し、それが原因である可能性が強いと報告しました (The New England Journal of Medicine 電子版 2011-3-16)。

このウイルスはブニヤウイルスの一種で、クリミア・コンゴ出血熱ウイルスやハンタウイルスなどと近縁です。感染経路は明らかになっていませんが、患者の多くは森林地帯などで発生しており、ダニに媒介される可能性も考えられています。